



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

国際ロータリー第2800地区 1959年6月9日創立

鶴岡ロータリークラブ

平成23年10月11日(火)
第2600回 例会
(本年度第13回)

例会場 東京第一ホテル鶴岡
(鶴岡市錦町 2-10)

例会日 毎週火曜日
(12:30~13:30)

2011-2012年度 国際ロータリー会長…カルヤン・バネルジー

クラブホームページアドレス◎<http://www.tsuruokarc.org/>

メールアドレス◎tsuruoka08@rid2800.jp

次週(10/18)のメインプログラム

クラブ協議会

次週(10/25)のメインプログラム

夜例会
鹿児島島の黒豚を楽しむ会

会長挨拶

青柳孝治

本日は、職業奉仕委員会の提案による移動例会であります。東北一の施設、設備を誇る消防本部を訪問し、最新の設備と訓練による地域住民の安全を守る消防の様子を東日本大震災時に、いち早く消防救助隊として大船渡や気仙沼に出動して救助活動に当たった当時の状況等についてお話を伺います。

又2~3日前から本クラブで支援した女川町の復興計画と町の状況が毎日のようにテレビで放映されておりますが、会員の皆様もご覧になっていると思います。津波の直撃を受けた港の近辺は土盛りをして公園にすること、次は工場、商業地とし住宅地は高台に持つていく計画で現在役場の仮庁舎のある近辺と競技場のある地域に住宅を建てる計画のようでした。女川町の年間予算は約30億円で内土木費は8億円となっており、復興計画では3千億円を要することからこのままでは100年~300年も要することになる等報道されておりました。

現在は、敷地が少ないことから2階~3階建ての仮設住宅を建設し、順次入居している様子でしたし、仮設住宅も船のコンテナを使うという、全国でも初の試みのようでした。早く復興することを祈りたいと思います。

当クラブと友好関係にある会津若松南RCにも文書で連絡を取っている所で、会津若松南との合同の災害支援も考えている所であります。



震災の最中の移転

鶴岡市消防本部 難波次長



本日はお出でいただきありがとうございます。鶴岡RCの青柳会長は私共の大先輩で、公私共に大変お世話になっておりますので今日は特別な対応を取らせて頂きました。

平成20年度から3ヶ年計画で新築移転の計画を進めてきました。震災の最中、3月26日からこちらで業務を開始しております。荘内病院に次いで二番目の免震構造の建物になっています。

震災には緊急援助隊として89名の隊員が活動をいたしました。その際、青柳会長からイギリスから送られたウォーターサバイバルセットをお借りし、現地の職員に見せた所、これは大変有難いものだから欲しい、100個あったら全部欲しいといわれ、差し上げることになりました。ロータリーの皆様にはお礼申し上げます。



左から、難波次長 神林総務課長 高山援助隊長

出席報告

会員数	39名
出席	28名
出席率	73.68%
前々回確定出席率	76.32%

■RI会長 カルヤン・バネルジー ■地区ガバナー 細谷 伸夫

■会長/青柳孝治 ■副会長/嶺岸禮三 ■幹事/木村 節 ■会長エレクト/阿部純次
■会報委員会/阿蘇司朗・阿部純次・嶺岸禮三

事務局:鶴岡市馬場町11-63 鶴岡産業会館3階 TEL(0235)28-3375 FAX(0235)28-3376

■ 鶴岡消防署東日本大震災緊急援助隊活動概況

① 出動から帰署日時

第1次隊 3/11(金) 16:17 出動
3/14(月) 0:37 帰隊
}

第7次隊 4/22(金) 6:22 出動
4/26(火) 19:30 帰隊

② 出動場所(岩手県)

【山形チーム】陸前高田市

【鶴岡チーム】大船渡市

③ 山形県隊、鶴岡隊の隊別救助数及び搬送人員

	山形県隊 救出者数	鶴岡隊 救出者数	鶴岡救助隊 搬送人員
第1次	11	5	5
第2次	7	3	7
第3次	5	1	
第4次	3	2	
第5次	3	1	
第6次	1	1	
第7次			4
合 計	30	13	16

■ 隊長の声

地震津波から約1週間は、とにかく大変な時期でした。次から次に火災や救助、救助要請の通報が入り、職員は、現場から帰っても休む間もなく、また次の現場に行かなければならず、帰ってくる度に疲労感が増しているのがはっきりとわかりました。

気力や体力の限界をはるかに超えていることを知っていながら、それでも次の現場に向かわせなければならぬので、職員の顔を見るのが辛かったです。とにかく無事に帰ってきてほしいと願うばかりでした。

職員は、安全管理や健康管理などない劣悪な環境の現場で仕事をしてくれましたが、一言の文句も私の耳には入りませんでした。職責を自覚した信頼できるすごい職員たちで、このような部下を持つ私は幸せもんだと改めて思っています。

私の家族は無事で、家にも被害はありませんでしたが、同僚職員や職員の奥さん、お子さん、ご両親などの死亡や行方不明の情報が少しずつ職員の耳に入り、それでも帰ることができず現場に向かう日々が続きました。みんな苦しかったと思います。職員には、言葉で言い尽くせぬ苦勞をかけてしまい、今でもすまなく



思っています。

■ 被災地の消防隊員の声

仕事熱心で使命感あふれる大事な職員を8名犠牲にし、2名はまだ行方不明となっています。非番の職員が自主的に、自衛隊の捜索に加わり行方不明の職員を探したりもしました。一家の大黒柱を突然失った家族の失望感・心痛を目のあたりにし、無念さでいっぱいであるとともに、この遺族の方々にしてあげられることは何なのか頭を整理しています。

今は、全国の消防本部の応援を得て、なんとか職員も家に帰すことができますが、40名の職員の家は、津波でなくなり、避難所や親戚の家に帰る状態です。4月になって私は、毎晩「災対本部会議」が終わり9時頃には家に帰ることができます。明るい電気の下で家族と夕食ができること、風呂に入れること、顔を洗い髪を剃られること、布団に寝ることなど、震災前は当たり前だったことができる幸せを実感しております。

しかし、電気も水道もまだ復旧していない所もたくさんあります。また、我々の消防庁舎にはまだ、150名弱が避難しており、当たり前のことをしたくてもできない方々を思うと、暖かいご飯を食べていいのか、箸が止まるときもあります。

犠牲になった職員のためにも、そして応援してくれる皆さんをはじめ全国の皆さんのためにも、職員には、我々は『消防一家』、家族であり、何があっても力を合わせ、消防という崇高な仕事ができることを幸せに思っ



委員会報告

◆ 出席委員会

◎ メイクアップされた方々

藤川享胤・牧 衛・丸山隆志・嶺岸禮三

西川富美子・塚原初男・青柳孝治・本間喜美子

佐藤孝子・佐藤友行・富樫松夫